

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 14

研究員



卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は日本コルマー株式会社の出雲研究所で勤務する西尾さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile 西尾 春香 さん

日本コルマー株式会社
研究開発本部 出雲研究所

島根県松江市出身。2020年3月に大学院自然科学研究科 環境システム科学専攻物質化学コースを修了。2020年4月に日本コルマー株式会社へ入社。インターンシップを通じて同社の魅力に触れ、入社を決意。入社時より出雲研究所で化粧品開発を担当している。

お客さまの希望をもとに原料選択や配合を調整化粧品を作りあげる

「化粧品OEM」をご存知でしょうか。化粧品受託製造とも言われており、依頼を受けて相手先ブランドの化粧品を製造することです。この化粧品OEM業界でナンバーワンのシェアをほこる「日本コルマー株式会社」の出雲研究所に勤務するのが西尾さんです。依頼は日本全国から。依頼主が希望する化粧品を開発し、製品化するまでの一連の工程を出雲研究所で請け負っていますが、西尾さんが担当しているのは化粧品の中身を作る開発業務です。どのような使用感のものを希望されているのか、どのようなターゲットに向けてのものなのか、まずは依頼主の希望をヒアリングします。例えば「しっとりした感じのクリームがほしい」「〇〇（既製品）のような使用感のものがほしい」など、大枠のイメージを聞いて、商品のターゲット層をもとに試作品を作ります。実際にその試作品を使ってもらい、意見を聞きながら、さらに改良を加えていくそうです。



新規開発の際にはチームで業務を進めていきます。チームには島根大学出身の先輩もいるそうです。

「仕事はとても楽しいです。もともと化粧品が好きなので、こんなターゲットでこんな使用感のものを作ってくださいと依頼が来ると、よしやるぞ！という気持ちに毎回なります。これは難しいな：と思うこともありますが、同じ部署の先輩方や同期と相談しつつ、いろいろ試行錯誤しながら作ってみることが楽しいです」。化粧品の原料は数多くあり、数パーセントでも配合が変わると使用感が大きく変わってしまうのだとか。「まだまだ知識不足なので、学びながらやっているところです。難しい作業ではありますが、実際に作った試作品がお客さまから高評価

だった時はすごくうれしいですし、それが仕事のやりがいにも繋がっています」と西尾さんは笑います。

将来を見据えた学び 考えて行動する姿勢が 現在の業務にも活かせる

大学時代は理工学系が専門で、有機金属を扱う研究をしていた西尾さん。このテーマ選択も、将来を意識したものだったと振り返ります。「大学3年の時にメイクに夢中になりました。その時にメイクをするので、なりたい自分になれるってすごいなと思い、そこから化粧品に興味がありました」。化学はもとも好きだったものの、その分野の中で有機化学は実は苦手分野だったのだとか。「でも、将来化粧品の業界で仕事をすると考えると、有機の知識は必要だと思い、研究テーマに選びました」。西尾さんが所属していた研究室は、総合理工学部の中では少人数の研究室でした。「研究室には楽しい思い出がいっぱいで、先生も優しくお父さんのような存在でした。先生の奥様がすごく料理上手で、手作りのパウンドケーキを差入れてくださったったり、冬にはお

でんや鍋を持ってきてくださいました」。アットホームな雰囲気の方で、学びの面では自分で考えて研究を進める、といったメリハリの効いた研究室だったそうです。就職活動の時期になり、かねてから興味があった化粧品のOEM業界を探していたところ、業界ナンバーワンである日本コルマー株式会社に出雲研究所があることを知りました。「インターンシップにも参加したのですが、その時に出雲研究所を初めて訪れて、実際に試作もさせてもらいました。ここなら製品数も多いので、いろいろなことができるのではないかと期待が膨らみました。それが入社後の決め手になりました」。インターンシップの時は、予め作るものが決まった上での試作でしたが、実際の業務では新規の依頼ごとによろしくに進めていくかを自分で考えて進める必要があります。「自分で考えて実行する力というのは、大学の研究室で身に付いたと思います」と西尾さんは言います。

資格取得や学びを深め スキルアップを図りながら 新規開発に取り組みたい

入社後、研究部員として製品開

発にあたる傍ら、自身のスキルアップを目指すべく、資格の取得にも積極的に取り組んでいる西尾さん。出雲研究所では危険物を扱うため、危険物取扱者甲種の資格を昨年取得しました。現在は、仕事上、肌の構造のことも知っておきたいとの想いから、化粧品検定1・2級の取得を目指して勉強に取り組んでいるところだそうです。

今後はもっといろいろな開発に携わって、製品化に繋がっていきたくて西尾さんは意気込みます。「これまで開発された処方レシピの実績がたくさんあるので、現状はそこから選んで作ることも多いですが、まだこの世にない使用感の製品を開発したいと思っています」。西尾さんが開発に携わったこれまででない使用感の製品が店頭で並び目が、遠くない将来、来るかもしれません。

読者の声

広報しまだい vol.50に寄せられた声をお届けします。

コロナの現在、どのような対策をされているのか、また、学生さんの授業の様子などももう少し詳しく知りたい。

(島根県出雲市・50代女性)

日々進化する研究とても期待しています。

(島根県江津市・40代男性)

せっかく良い取り組みをされているので、SNSで情報発信していることをもう少し前面に出してください。

(島根県出雲市・20代男性)

島大の人たちが色々なことに地域貢献していってほしいので私も見習いたいです。

(島根県出雲市・50代男性)